



うめだ まこと
梅田 誠教授

日本歯周病学会常任理事、日本歯周病学会専門医・指導医

1983年東京医科歯科大学歯学部卒業、1987年東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了、2011年より現職。

スケーリング・ルートプレーニング

歯周病予防のため、6か月に一度は歯科医院でクリーニングをしましょう。

歯周病は全身の病気と深い関わりがあるといわれています。日本歯周病学会にご協力をいただき、歯周病についてのお話をうかがいます。
第21回は「スケーリング・ルートプレーニング」です。

はじめに

歯周病の原因はプラークですが、菌みがきか不十分で歯の表面に付いたプラークがそのまま残っていると、唾に含まれるカルシウムなどにより石灰化して歯石(歯肉縁上歯石)になってしまいます。プラークが石灰化して歯石になってしまふと、硬く歯にくっ付いた歯石は歯ブラシでどんなに磨いても取れません。

歯石がつくと、さらに悪いことにその表面がザラザラするため、その上にプラークがくっ付いてたまりやすくなって、歯周病にかかりやすくなります。さらに、歯にくっ付いた歯石をそのままにして歯周病が進み始めると、歯と歯肉の間の隙間が深くなって歯周ポケットができて、その内部に歯石(歯肉縁下歯石)がくっ付いて歯周病原細菌の棲家となり、さらに歯周病が悪化していきます。

歯石は付いてしまったら自分では取り除くことができないので、6か月に一度は歯科医院でチェックしてもらって、専用の器具で取り除いてもらいましょう。この歯石を取り除いてきれいにすることで治療を「スケーリング・ルートプレーニング」といいます。



歯肉縁上歯石
(歯の表面にくっ付いた歯石)

歯肉縁上歯石は、歯肉に覆われていない歯の表面にくっ付いた歯石で、白っぽく、歯肉縁下歯石より大量に付きやすく軟らかいのが特徴です。超音波スケーラーなどの専用の器具を使えば簡単に取り除くことができ、早めに定期的この歯石を取り除くことで歯周の健康を保つことができます。

特に歯肉縁上歯石が付きやすい部分は、下の前歯の内側(舌側)なので、その部分が舌でさらさらするような感じがする場合は歯科医院で診てもらってください。歯科医院で歯石を取り除いてもらえば、歯の表面がつるつるになってプラークがくっ付きにくくなります。この歯石を取り除く治療をスケーリングといっています。

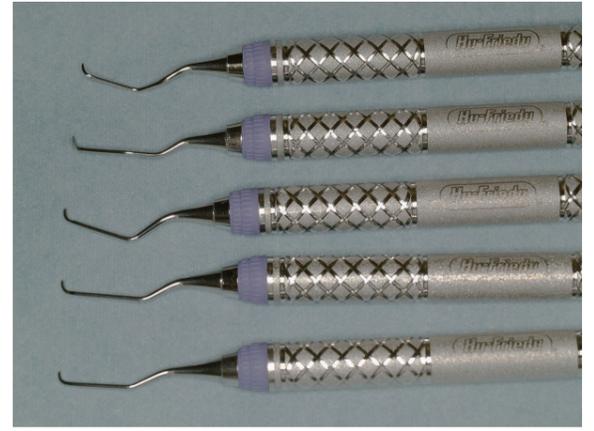
歯肉縁下歯石
(歯と歯肉の溝などに付いた歯石)

歯肉縁下歯石は、歯と歯肉の間の溝、歯周ポケット内部(歯肉縁下)の歯の根の部分にくっ付いた歯石です。歯肉縁下歯石は歯肉縁上歯石と比べて色は黒っぽく、より硬く歯に強固にくっ付いているので、専用の器具を用いても歯肉縁上歯石ほど簡単には取り除けません。さらに歯肉の溝の中の直接目で見えないところに付

いているので、手探りになるため歯肉縁上歯石ほど完全に取り除くことは困難です。
特に歯周病が進んで歯周ポケットが深くなった部分に歯肉縁下歯石がくっ付いている場合は、歯周外科手術で歯肉を切っけて開かなければ完全に取り除くことはできません。
歯肉縁下歯石を取り除く際に用いる器具は、キュレットスケーラー(図1)という、先が匙の形をした刃でできた特殊な器具で、歯周ポケット内の歯石を取り除くことができる形になっています。

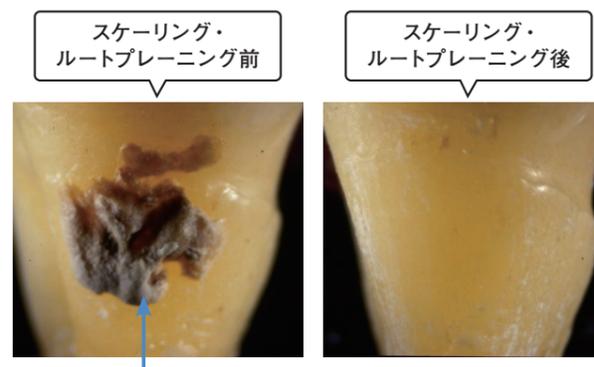
歯肉縁下歯石がくっ付いている歯の表面は、プラーク細菌による毒性物質に汚染されている

図1 スケーリング・ルートプレーニングに用いるキュレットスケーラー



匙の形の刃で歯石を取り除き、歯の表面をつるつるにできます。

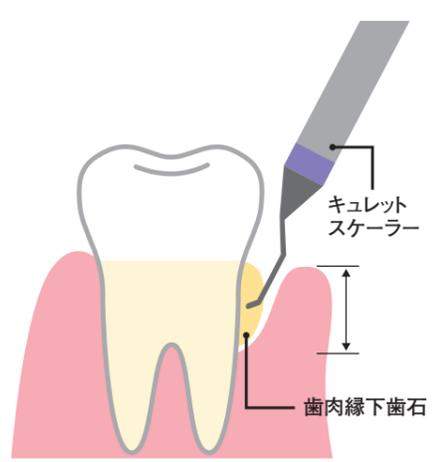
図2 スケーリング・ルートプレーニングによる歯根面の変化



歯肉縁下歯石

ことから、キュレットスケーラーで歯肉縁下歯石を取り除くだけでは不十分です。汚染された歯の表面を一層、鈍をかけるように取り除いて、表面を清潔でつるつるの状態にする必要があります。この操作をルートプレーニングといっています。
歯周ポケット内部の歯肉縁下歯石を取り除いて汚染歯根面を取り除いてつるつるにする(図2)一連の処置を「スケーリング・ルートプレーニング」といいます(図3)。

図3 スケーリング・ルートプレーニング



まとめ

スケーリング・ルートプレーニングは基本的な歯周治療です。歯科医院で定期的にチェックしてもらって、早いうちに歯石を取り除くことで、歯周の健康を維持することができます。また、歯周病の進行が軽度なうちは、歯周ポケットが浅いので、治療が簡単なスケーリング・ルートプレーニングで歯周の健康を取り戻すことができます。

定期的にかかりつけの歯科医院を受診することで、いつまでもみなさまのお口の健康が守られることを願っております。

次回は「薬物療法」です。